



目次

- ◆ 晴海臨海公園大型複合施設完成(大竹市)
- ◆ 潜水艦救難艦「ちよだ」自衛艦旗授与式
- ◆ 米海兵隊岩国航空基地 フレンドシップデイ開催
- ◆ 航空自衛隊美保基地・防府航空祭開催
- ◆ イージス・アショアの配備先候補地について
- ◆ 日本原演習場における米軍単独訓練について

- ◆ 島根県・広島県内における新たな騒音測定機設置
- ◆ 中国四国防衛施設地方審議会の開催
- ◆ 局長感謝状贈呈(岩国市商工会議所会頭、米海兵隊岩国航空基地バグ中佐)
- ◆ 人事異動(調達部長)の御挨拶
- ◆ 職員の独り言(防音対策課、業務課)



晴海臨海公園大型複合遊具 完成(大竹市)



平成30年4月27日、大竹市の晴海臨海公園内において大型複合遊具の完成式が、大竹市の入山長、児玉市議会議長、中国四国防衛局の赤瀬局長、地元自治会関係者の出席のもと行われました。

完成式後、「遊び始め」として招待された地元の小方小学校1年生及び立戸保育所年長の子供らが遊具へ向かって走り出し、遊具内を楽しく遊びました。

大型複合遊具は、大竹市を象徴するコンビナートをモチーフにデザインされており、赤や青のカラフルな遊具6種類を配置し、メインは高さ約14メートルの「ロボボファクトリー」で、最長24メートルある9つの滑り台やつり橋、迷路が楽しめ、幼児用の小型遊具も備えています。

この遊具は、ファミリー層を呼び込み、にぎわい創出を図るため整備されたもので、再編関連特別事業として、再編交付金約1億円が活用されています。



再編交付金は、駐留軍等の再編の円滑な実施に関する特別措置法に基づき、住民の生活の利便性の向上及び産業の振興に寄与する事業に係る経費に充てるため、関係市町へ交付しています。

潜水艦救難艦「ちよだ」自衛艦旗授与式

平成30年3月20日、三井造船株式会社玉野事業所において、潜水艦救難艦「ちよだ」の引渡式・自衛艦旗授与式が行われました。

海上幕僚長から「ちよだ」艦長へ自衛艦旗が授与され、「ちよだ」艦尾に自衛艦旗が掲揚された後、横須賀に向け出港しました。

潜水艦救難艦は、潜水艦事故に対応するため深海救難艇(DSRV)や飽和潜水作業に必要な施設を備え、浮上不可能な潜水艦の捜索、乗員の救難を任務とする艦です。

潜水艦救難艦「ちよだ」は搭載する深海救難艇を大型化することで一度に救出できる乗員数が従来艦「ちはや」の12名から16名に増加しました。また、深海における捜索能力を生かし、災害派遣では沈没船舶の捜索活動に従事することも可能とし、大規模災害等に対応するため、手術用寝台2床と病床10床を設置しています。

潜水艦救難艦「ちよだ」は海上自衛隊横須賀基地の第2潜水隊群配属となり潜水艦救難の任務に当たります。



海上幕僚長から「ちよだ」艦長へ自衛艦旗を授与



出港のため「ちよだ」に乗艦する隊員



自衛艦旗が掲揚され出港を待つ「ちよだ」



横須賀に向け出港した「ちよだ」



平成28年10月17日に行われた命名・進水式





過去最高21万5千人が来場、戦闘機による飛行展示など来場者を魅了しました。



写真提供:米海兵隊岩国航空基地

極東で初めて行われたF-35Bによる飛行展示



空中給油機KC-130とF-18、F-35Bによる空中給油のシュミレーション飛行



航空自衛隊美保基地航空祭 開催



C-2 輸送機による編隊飛行

C-2 輸送機の機内見学

開庁60周年の節目を迎えた航空自衛隊美保基地において平成30年5月27日航空祭が開催されました。航空祭には、約3万3千人が来場し、同基地所属C-2輸送機の編隊飛行や築城基地F-2、新田原基地F-15が飛来し、航空ショーに華を添えました。地上においても同基地所属C-2輸送機の機内見学、陸上自衛隊から地对空誘導弾、155mm留弾砲など、海上自衛隊からP-1哨戒機などの展示が行われました。（写真提供:航空自衛隊美保基地）

航空自衛隊防府航空祭 開催



松島基地から飛来?したブルーインパルスJr

家族連れで賑わったミニ電車

平成30年6月3日、航空自衛隊防府北基地を一般開放して防府航空祭が開催されました。航空祭には、約3万人が来場し、2年ぶりにブルーインパルスが防府の空に芸術的なパフォーマンスを披露しました。地上ではブルーインパルスJrの走行展示や戦車体験搭乗、フライトシミュレータ見学、ミニ電車の運行などが催され、家族連れで賑わいました。同基地司令は、「航空祭が多くの観客の皆様方に感動と夢を与えてくれたものと信じており、今後とも防府北基地隊員一同、皆様方からの信頼と期待にお答えできるよう努力する所存であります。」と御挨拶されました。（写真提供:航空自衛隊防府北基地）

イージス・アショアの配備候補地について

大野防衛大臣政務官による説明

平成30年6月1日、大野防衛大臣政務官が山口県庁を訪れ、山口県知事、萩市長、阿武町長、山口県副知事、山口県会議長、萩市会議長、阿武町会議長に陸上配備型イージス・システム（イージス・アショア）の配備候補地として山口県萩市及び阿武町に所在する「陸上自衛隊むつみ演習場」を候補地として選定したことを説明しました。

また、「北朝鮮情勢に変化はあるものの日本が射程に入る弾道ミサイルを実戦配備していることに変わりはなく依然として深刻な脅威である」などイージス・アショアの必要性を説明し、今夏以降、地質・測量調査、基本検討及び電波調査を行い、その結果を踏まえ適地であるかどうかを決定することを併せて説明しました。

山口県知事、萩市長及び阿武町長からは、「住民説明会を開催するなど、住民の不安の払拭に努めるように」との要望があり、大野政務官は「防衛施設の運用は地元の住民や首長の理解が得られないと進められない」と述べ、住民説明会を開催するなど、地元住民の方々に対し丁寧な説明を行うことも伝えました。



(上)山口県知事、萩市長、阿武町長及び各会議長
(下)大野政務官、赤瀬局長、陸幕防衛部長ほか



萩市議会及び阿武町議会全員協議会への説明

イージス・アショアについて、山口県と同様に平成30年6月18・19日の両日、赤瀬中国四国防衛局長ほか萩市議会及び阿武町議会の全員協議会において説明しました。

また、イージス・アショアに関して山口県、萩市及び阿武町からいただいていた照会に対する回答について説明し、電波に関する人体への影響や水源を含む環境への影響がないことなどについても説明しました。

萩市議会議員及び阿武町議会議員からは、住民の不安の払拭に努めるよう要望が出され、局長は「住民の理解と協力を得られるよう努力をしていきたい」と述べ、地元住民の方々に丁寧な説明を行うことも伝えました。



(上)萩市全員協議会の様子
(下)阿武町全員協議会の様子

全員協議会・住民説明会の日程

6月17日	阿武町のうそんセンター (住民説明会)
6月18日	萩市役所(全員協議会)
	萩市むつみコミュニティセンター (住民説明会)
6月19日	阿武町役場(全員協議会)
	サンライフ萩(住民説明会)



萩市民及び阿武町民への説明



平成30年6月17日から19日にかけて、萩市内2カ所及び阿武町内1カ所において住民説明会を実施しました。延べ約640人の住民の方に参加していただき、赤瀬中国四国防衛局長が説明の上、住民の方々との質疑応答を行いました。

説明の中では「地元の御懸念等に対し、しっかりと説明していく」と述べ、住民の方々に繰り返し丁寧な説明を行うことを伝えました。

小野寺防衛大臣による説明



平成30年6月22日、小野寺防衛大臣は山口県庁を訪れ、イージス・アショアの必要性を説明し、むつみ演習場が実際に配備候補地として適地であるかどうかの調査として、基本検討及び地質・測量調査を平成30年6月21日に公告したことを説明しました。

山口県知事、萩市長及び阿武町長からは、詳細に丁寧に分かりやすく重ねて説明するよう要望がありました。

小野寺防衛大臣は「地元の不安を払拭できるよう努力していく」と延べ、今後もしっかりと地元の方々に丁寧な説明を行うことを伝えました。

日本原演習場における米軍単独訓練について

岡山県の陸上自衛隊日本原演習場においては、自衛隊と米軍による共同訓練は実施できることとなっているものの、米軍単独による訓練については実施できなかったところです。他方、米海兵隊岩国航空基地所属の後方支援部隊より、同部隊の訓練所要を満たし、効率的な訓練環境の確保等の観点から、同演習場を使用して訓練を実施したい旨の要請がありました。

このため、中国四国防衛局は、地元である津山市及び勝田郡奈義町と調整を行ってきました。その結果、地元市町より訓練実施について容認していただいたことから、平成30年5月11日、日米合同委員会において同演習場の米軍単独使用(年間約2週間)についてJC合意しました。また、平成30年6月29日、津山市及び奈義町と当局の間で、訓練実施に当たっての当局の対応等に係る「陸上自衛隊日本原演習場の米軍使用に関する覚書」を調印しました。

当局としては今後、第1回目の訓練実施に向け、地元、自衛隊及び米軍等と調整を行っていくこととなりますが、米軍の訓練実施にあたっては、地元からの訓練期間中の安全・安心対策等についての御意見・御要望を踏まえ、訓練期間中の安全・安心対策等について万全を期してまいります。

「陸上自衛隊日本原演習場の米軍使用に関する覚書」調印式



奈義町で行われた調印式

陸上自衛隊日本原演習場の米軍使用に関する覚書
調印式



津山市で行われた調印式

島根県西部及び広島県西部地域における新たな航空機騒音測定器の設置

島根県西部及び広島県西部地域において米軍機の飛行の目撃情報や騒音による苦情が寄せられていることから、中国四国防衛局は、地元の要望等を踏まえ、平成25年に島根県浜田市及び広島県山県郡北広島町に、平成28年に島根県益田市及び邑智郡邑南町に各1台、計4台の騒音測定器を設置し、騒音の実態把握に努めてきました。

平成30年3月には、既設の4台に加え、島根県江津市、邑智郡川本町、広島県山県郡安芸太田町、山県郡北広島町に各1台、計4台の騒音測定器を追加で設置し、4月から測定を始めているところです。

当局としては、8台の騒音測定器により、更なる騒音の実態把握に努めてまいります。

なお、測定結果については、中国四国防衛局ホームページに掲載しておりますので、ご参照下さい。



島根県江津市桜江総合センターに設置した騒音測定器



島根県西部及び広島県西部地域における騒音測定器設置場所

<http://www.mod.go.jp/rdb/chushi/>



平成29年度中国四国防衛施設地方審議会 開催



審議会開催の様子



第31航空群司令表敬

平成30年3月13日、TKP広島平和大通りカンパレンスセンターにおいて、小田宏史会長（もみじ銀行取締役頭取）をはじめとする5名の委員と赤瀬局長ほか担当職員が出席し、中国四国防衛施設地方審議会を開催しました。

審議会において、当局宮川企画部長及び木村調達部次長から漁業補償業務や米軍再編事業について説明を行い、これに対して、委員から貴重なご意見をいただきました。

また、午後からは海上自衛隊岩国航空基地において、二川第31航空群司令への表敬の後、概況説明、フライトシミュレーター体験及び航空機見学を通し、防衛政策・防衛行政について理解を深めていただきました。



航空機見学

岩国商工会議所長野会頭に局長感謝状を贈呈



平成30年3月7日、岩国商工会議所の長野会頭(当時)に中国四国防衛局の赤瀬局長から局長感謝状と記念品が贈呈されました。

長野会頭(当時)は、就任以来、4期12年にわたり、岩国市経済の発展に努めるとともに、防衛政策への深い理解の下、商工会議所会頭の立場から岩国飛行場における施設の安定的使用に寄与され、地元経済界及び住民の理解の醸成を図り、岩国飛行場とその周辺住民との良好な関係作りに尽力されました。また、米軍人等との交流についても「軍人、軍属やその家族も日本社会の一員として住める未来志向のコミュニティーづくりを目指したい」と積極的に発信し、米側との融和に努めるとともに、岩国商工会議所のHP等で米海兵隊に係る入札情報の発信や事業者向けに米海兵隊との『ビジネスチャンスガイド』を作成・発信する等、地元経済界と岩国飛行場との積極的な結びつきに尽力されました。

第171海兵航空支援師団 バーグ中隊長に局長感謝状を贈呈



平成30年6月13日、米海兵隊岩国航空基地第171海兵航空支援師団のバーグ中隊長に中国四国防衛局の赤瀬局長から局長感謝状と記念品が贈呈されました。

バーグ中隊長は、アメリカバージニア州出身、平成28年より岩国基地に勤務され平成30年6月20日付けでアメリカ国防総省に異動になりました。

岩国基地に勤務された間、地方防衛局の業務に理解を示し、陸上自衛隊日本原演習場における米軍単独訓練に係る地元調整に協力し、地元の理解を得ることに多大な貢献をされました。

また、日米間の様々な諸調整においても中心的な役割を担い、事業の円滑な進捗に尽力されました。

人事異動の御挨拶(平成30年4月1日付)



ひらかわ みつぎ
(調達部長 : 平川 貢)

4月1日付で調達部長を拝命いたしました平川です。地元広島県の出身ではありますが、当局の勤務は初めてとなります。

調達部は、管内に所在する自衛隊や在日米軍が使用する施設の整備のほか、自衛隊の任務遂行に必要な装備品等の調達に関する業務(広島県、島根県及び山口県の一部を管轄)を行っており、職員はその専門分野で日々頑張っております。

防衛施設及び防衛装備品は、自衛隊や在日米軍の活動の基盤をなすものであることから、その安定的使用を確保するための施設整備及び装備品の調達は重要であり、これらの事業を遅滞なく遂行していくため、日々の技術力の研鑽と地元の皆様の御理解を得るべく努めて参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

職員の独り言



しんかい ゆうか
(防音対策課 新海 悠鶴)

私は、平成28年4月1日付けで新規採用となり、企画部防音対策課に配属されました。当課では、飛行場周辺の住宅や学校において、航空機騒音を軽減する為に行われる防音工事に対し助成を行っています。その中で、私は主に住宅防音工事で設置した空調機器の復旧工事に関する手続きを担当しており、書類の審査や窓口業務、関係業者との調整業務、現場での復旧機器の調査等を行っています。個人や業者相手であること、また、専門的な知識が必要なこと等、苦勞することは多々ありますが、色々な分野での経験値を積める良い場だと感じています。

休日は、友人と趣味のバイクで遠出し、旅先で観光や食事を楽しむことでリフレッシュしています。仕事と私生活を充実できるよう、今後とも励んでいきたいと考えています。

私は、平成27年10月1日付けで新規採用となり、最初の配属先は企画部施設補償課でした。

施設補償課では漁業補償に関する業務を担当し、その中でも主に水揚金額や漁船、漁具の確認などをしていました。業務をする上で、関係法令はもとより魚名や漁法など専門知識を覚えることが多く大変でした。他方、関係自治体や漁協などへ行き、現場で水揚げされた魚や漁船等を実際に見たことは、とてもよい経験になりました。

また、本年4月1日から企画部業務課の配属となり、米軍施設や自衛隊施設にある建物を解体した際に生じた鉄くずや配管、銅線などのいわゆる発生材について、スクラップ等処分業者を対象に一般競争入札を行って売払処分を行う業務を主に担当しています。

当該業務は、調達部との調整を中心とし、根拠法令を確認するなどして、一日でも早く身に付くよう日々上司の指導を仰ぎながら取り組んでいます。

プライベートでは、家でゆっくりしたり、実家の岡山に戻って高校の同級生たちと結成した野球チームで試合に出たりするなど、充実した日々を送っています。



あおくさ ひろゆき
(業務課 青草 弘幸)